

令和元年度

<平成31年度4月1日～令和2年3月31日>

事業報告書

- 法人事業
- 幼保連携型認定こども園
 - 美木多いっちゃん保育園
 - ベビーセンターいっちゃん保育園

社会福祉法人 美多弥福社会

1. 法人事業報告

● 運営状況

- ① 幼保連携型認定こども園 2園の運営に全力を投入。
 - ② 社会福祉法人として、施設周辺の地域事情を踏まえながら、教育・保育と地域福祉に寄与すべく努力を重ねた。
- ※ 現時点では児童福祉を中心とした事業展開となっているが、社会的なニーズの多様化が増大傾向にあり、その対応に注力してきた。
- ※ 関係機関への連携も努力を重ね一定の評価を得ている。

● 組織の動き

法人本部としての機能を強化を模索してきたが、有効な対策を取れるところまで、至っていない。前年度より「法人戦略室」を設置、今後の運営等に様々な提案があったが、実施には至っていない。(現実的に難しい)

専門業務を可能な限りアウトソーシングすることで、諸規程等の見直し、必要な対応を実施できた。引き続き次年度も継続していく。

両園（美木多いっちゃん保育園、ベビーセンターいっちゃん保育園）の特徴を生かした差別化を実施。日常活動、食育活動、保健指導等、国施策の変更に伴い、再構成を継続。

定時評議員会は年間1回とし、理事会については、事案が発生した場合、開催をしている。

・ 堺市指導監査の状況

指導監査結果については別紙参照のこと。

・ 施設の職員体制

求人募集については相変わらず難しい状況が続いており、来年度に向けて新卒採用はゼロ。2名の退職者が出たため、結果的に人材紹介会社からの斡旋

と現職員からの紹介で採用をした。

現在、3名が育児休業取得しており、産休育休代替の職員の採用を早期に募集する必要がある。

- **法人運営費**

現状では、資金の確保は寄付以外はなく、独自の収入確保が今後の展開となるのではないかと懸念されている。

- **施設の動き**

美木多いっちゃん保育園の壁クロスが経年劣化により、剥がれ汚れてきたため、美観を損なうため、各教室のクロスを張り替えた。2階共用部分については、助成金を申請することとしている。

また、ベビーセンター（分園）の外壁にひび割れがあることから、早期に修繕対応をしなければならず、見積書を依頼したが、かなりの金額となったため、次年度以降に持ち越しすることとした。

また、令和3年度3月末日を以て、堺市と美木多いっちゃん保育園の土地賃借無償提供が終了するが、引き続き有償での賃借による契約を締結することとなる。

- **教育・保育力の向上、労働時間短縮への内部努力**

全職員が平均して同じ力を発揮することは難しく、個人の得手・不得手は否めない。専門性は専門講師に委ね、行事等を見直すことにより、労働時間の短縮を実施している。日々の保育準備、行事準備による職員の疲弊を和らげるよう、法人努力をしてきた。

- **正課活動、課外活動(専門講師による)**

体育指導、楽器指導、英語指導、国語指導、ダンス指導（正課）

英語指導、国語・算数指導（課外）

令和元年度 幼保連携型認定こども園

「美木多いっちゃん保育園・ベビーセンターいっちゃん保育園」事業報告

周辺地域における乳幼児の育ちの場を提供し、求められるサービスを提供するため、努力を果たしてきた。入園して、安心できる園、満足度を向上させるため、違う角度からのアプローチを重ねたり、従来からの保育を継続してきた。

2園のそれぞれの特徴を生かして、教育・保育をその責任を果たすべく、一層のレベルアップを図った。保護者に理解を求めながらも、変化をし続けていくことも日々検討しながら邁進した。

令和元年度 入所状況結果(令和2年3月1日付)

年 齢	美木多いっちゃん保育園 定員 115名 (1号認定 15名)	ベビーセンターいっちゃん保育園 定員：55名
0歳児		13名
1歳児	14名	21名
2歳児	16名	20名
3歳児	30名 (内1号認定5名)	
4歳児	33名 (内1号認定4名)	
5歳児	28名 (内1号認定8名)	

南区全体の待機児童数は減少している。育休明けに入所申し込みが集中するため、0歳児の入所減、1歳児の入所が増加した。但し、途中入所については、職員配置及び最低基準面積の関係から、入所をお断りするケースがあった。一時預かり保育については、利用者のニーズに応えるため、可能な限り実施した。

月一回の「地震・火災訓練」に力を入れて、今後懸念されている、南海トラフ地震の発生時に園として体制を整えていく。

防犯指導には、堺南警察署より、消防訓練では、南消防署からの指導を仰いだ。

障がい児保育については、堺市からの巡回訪問相談員から助言を頂きながらも、美木多いっちゃん保育園が、教育面を重視する方針としたことが影響しているか、障がい児の入所はない。

職員処遇について

1. 週休二日制を継続、法律改正による有給休暇取得（5日以上付与義務）を完遂できた。
2. 職員検診、予防接種の勧奨、検便等により健康管理に努めた。また、職員のストレスチェックを実施、腰痛体操を実施。看護師により分析、結果をまとめた。
3. 内部研修、外部講師による研修を実施。職員のレベルアップに繋げた。
4. 全職員を対象に、保育士等処遇改善手当Ⅱによる手当を一定の要件を満たした職員に支給した。（最大年間支給額 480,000円）次年度もこの施策は継続とされることから、支給要件を検討して、公平性を保ちつつ、職員に充当する。また、来年度に向け養成校からの採用がなく、人材紹介会社斡旋による採用となった。
5. 厚労省の「保育所における感染症対策マニュアル」が改訂されたことを受け、当園の感染症にかかわるマニュアルの見直しをした。新型コロナウイルス感染症による、お別れ遠足等の行事を一部中止せざるを得なかった。卒園式は規模を縮小することにより実施ができた。
6. 新型コロナウイルス感染症による、危機管理マニュアルの見直しを進めていく。

保護者・地域活動について

1. 日常の教育保育参加、日々の引き継ぎ、説明責任、健康管理の励行（手洗い・うがい）を進めた。
2. 育児相談、園庭開放（ベビーセンター-いっちゃん保育園のみ）、地域子育てサロンへの職員派遣等、地域の子育て支援を促進した。
3. 今年度も地域の小学校見学を実施。（5歳児）
4. 小学校への困り感を解消すべく、校区の小学校、こども園、幼稚園と連携しての話し

合いの場を設ける。(幼保小連絡会の開会)

5. 老人保健施設カロスを訪問 (ベビーセンターいっちゃん保育園 2歳児)
6. 小規模老人施設ハーモニー美木多より入居者訪問 (美木多いっちゃん保育園)
7. 保護者会等の組織がないため、行事後等にアンケートを実施、結果を保護者に伝えるとともに、内容を精査して改善すべき点は改善してきた。
8. 校区老人会から園児の訪問要望があり、今後も積極的に参加していく。

◆ 施設、設備等について

- (ア)引き続き、IDカードによる登降園を行い、安全面を重視して進めてきた。
- (イ)登保育計画、保健関係の機能アップを図るべく、新システムを稼働した。
- (ウ)情報漏洩を防止するため、ネットワークセキュリティの構築を実施した。
- (エ)暑さ対策のため、初夏から秋まで、園庭の日除け(寒冷紗)を設置した。
- (オ)消防機器、110番通報機器、エレベーター等の点検を実施した。
- (カ)毎月、施設の安全チェックを行った。
- (キ)発達障がい(或いは愛着障がい)と思われる子どもに対して、慎重に保護者との面談を行ってきた。行政とも連携を強化してきた。

次年度の予定

- A) 美木多いっちゃん保育園各クラスのクロス張り替え工事。
- B) 両園の床ワックスコーティング

資金の動き(別紙決算書参照)

- イ) こども園の経費は、運営助成金、補助金収入で賄った。
- ロ) 施設整備等協力金を生活発表会ホール賃借料や園外保育バス代金等に充当した。

次年度の展開

両園、安全で美しい園舎を維持するため、維持管理に努め、必要があれば補修を都度実施する。引き続き、全体の経費の削減に努め、ランニングコストを削減する。

職員採用、職員査定（人事考課）の枠組みを新たに設置された「法人戦略室」とともにシステム構築を目指した。

その他

「石井方式漢字教育」を取り入れて3年目が終わった。当園で年少から3年間実施した初めての年長児は「音読コンクール」において、初参加で「団体銅賞」を授与された。音読、ダンス（静と動）相反するこのカリキュラムを特に重視してきた。発表会での舞台上で子どもたちはその力を遺憾なく発揮してくれた。保護者からは、「幼い子どもたちが、ここまでできるものなのか」と、大きな賛辞と驚きの声があった。

令和元年10月より、「幼児教育の無償化」が施行され、事務処理量が増加した。申請や実績報告の様式の簡素化を自治体をお願いしたい。今般の新型コロナウイルス感染症による事務処理量が多くなることは必至だと思われる。

以上